記入日：令和２年７月２０日

事例32　ミニデイサロン『東沼目100歳体操』

分類：居場所　アウトリーチ　相談　学習支援　見守り　住民主体　運動

運営団体基本情報

● 運営団体名	東沼目100歳体操	● 代表者名	会長　富塚　正	● 所在地	神奈川県伊勢原市
● スタッフ構成	3人（住民ボランティア）	● 運営財源	社会福祉協議会助成金		
● 連絡先	TEL:0463(97)4755 Email:hanataba@showyoukai.com （伊勢原東部地域包括支援センター　花たば）	● ホームページ（参考情報）			

新型コロナウイルス感染症拡大前の事業概要

● 対象者層	高齢者	● 活動頻度	週1回	● 活動場所	東沼目会館
● 活動の形態	介護予防	● 平均利用者数	20人	● 利用料金	無料

［活動の特徴と新型コロナウイルス感染症対策］

具体的な活動

●新型コロナウイルス感染症拡大前

伊勢原市の介護予防事業「ふれあいミニディ（サロン）」に登録し、毎週生き生き100歳体操を行うと共に、伊勢原市介護高齢課や地域包括支援センター職員等とも連携を取り、介護予防に取組ながら、地域住民同士の交流の機会を担っていた。

●新型コロナウイルス感染症拡大後の取組と工夫

正式な活動開始直後に活動自粛となる。自粛中は会長や世話役が会報を作成し、会員のつながりを維持する目的で会員宅を個別訪問。配布時に会員の安否確認や近況を確認し、一人暮らしや高齢者世帯の会員の見守りや会員同士のコミュニケーションを図り支え合いに繋がった。
自粛後の再開にあたっては、国・県の方針を確認すると共に、市主催の通い場説明会へ参加。市が作成した「住民主体の通いの場向けの新型コロナウイルス感染症拡大防止ガイドライン」をもとに会場の環境整備や手作りのフェイスシールドを世話役が用意し、ミニサロン再開を準備した。
6月の再開初日には、会員同士の自己紹介や近況報告を行い、互いのコミュニケーションを図れるよう機会を設けた。

●取組の効果

自粛中は自宅に閉じこもりがちとなっていたため、会報や訪問でつながりを持ち、状況把握を行ったことが会員の心身状況の低下を最小限に抑えられたと世話役の報告から確認することが出来た。
活動再開にあたり、市が設けた「体温測定などの参加者の体調管理」「3密防止」「手・設備・器具の消毒の徹底」の基準を徹底し、感染予防に配慮している。

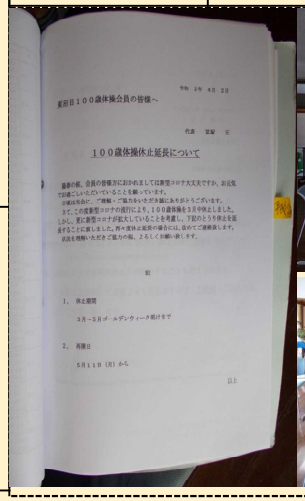
● 活動経費

運営経費について社会福祉協議会助成金により充当している。

●その他、特記事項

市や地域包括支援センターと新型コロナウイルス感染症拡大防止情報を共有しながら再開後も必要に応じて情報共有を行っている。

★市町村基本情報
神奈川県伊勢原市　神奈川県中央部に位置する。
人口 100,000人　高齢化率26.2%（2020.4末）


東沼目１００歳体操会員の皆様へ

１００歳体操休止延長について